

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年12月1日

協議会名： 一関市公共交通会議

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
(有)室根タクシー	室根地域デマンド型乗合タクシー (運行区域：一関市室根町)	令和5年度新規事業のため、前回の事業評価なし。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	C 【目標】 ①利用登録者数を107人以上とする。 (令和5年1月時点102人から5%増) ②月平均利用者数を97人以上とする。 (令和4年5月～令和5年1月の月平均利用者数(97.6人)から維持) 【実績】 ①利用登録者数110人(令和5年9月30日時点)(達成率:102.8%) ②月平均利用者数 82.8人(令和5年5月～9月:414人)(達成率:85.4%) 継続的なチラシ配布により、デマンド型乗合タクシーの認知度が上がったことで利用登録者が増加し、①の目標を上回った。半面、試験運行時から一部路線を減便したことで利用者が減少し、②の目標を下回った。 計画運行回数に対し、運行実績回数が30%を下回り、補助対象外となった。	・運行事業者から報告される運行日報から利用状況を分析し、継続的に利用実態を把握する。 ・高齢者・障がい者・免許返納者に対する乗車券の配布を継続して実施する。 ・新たな利用者の獲得に向けて、利用方法のチラシを配布するなど周知を行う。 ・より利便性の高い運行方法について引き続き検討する。 ・毎月の利用者数の変動に注視しながら慎重に目標値の検討を行う。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年12月1日

協議会名:	一関市公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>一関市は東北地方の中央に位置し、首都圏からは約450km、仙台と盛岡の中間地点にある。岩手県南・宮城県北の『中東北の拠点都市』として、経済・文化・教育の中心となっている。人口は10.8万人、面積は1,256.42平方キロメートルであり、面積は県内2位の規模となっている。</p> <p>一関市においては、新幹線駅の一ノ関駅のほか、東北本線の駅が4駅、大船渡線の駅が12駅あり、岩手県交通株式会社の一関営業所、千厩バスターミナル、東磐交通株式会社があるなど、鉄道、バスから構成される公共交通機関網が広がっている。また、鉄道や民間バスなどの幹線交通に接続する市営バスが、支線の役割を果たしている。</p> <p>しかしながら、人口減少と自家用車の普及により、当市の公共交通機関の利用者は減少を続け、収支悪化による民間路線の撤退や行政負担の増加をはじめ、運行に様々な影響を及ぼしている。室根地域では昭和60年に宮城交通の路線が廃止となり、市営バスとして運行を引き継いだところである。この市営バスにおいても年々利用者数が減少し、1便当たりの平均乗降者数は1人未満となっていた。</p> <p>そのため市営バスに代わる公共交通として、令和4年5月1日から、予約があったときのみ運行するデマンド型乗合タクシーの運行を開始した。現在、室根地域においては、デマンド型乗合タクシーが通院・買い物を中心とした住民の生活に不可欠な公共交通となっている。そのため、地域内フィーダー系統確保維持事業により室根地域デマンド型乗合タクシーを確保・維持することで、住民の交通手段を存続させていくことが必要である。</p>